

夏休み明け、様々な行事(取組)が待っています！

35日間の夏休みが終わりました。毎年のことではありますが、この時期が一番子どもたちの成長を感じる時です。約1ヶ月間、学校ではできない様々な経験を家庭や地域でしたことにより、心身ともにより一層たくましくなっている姿がとても印象的です。家庭、地域、学校が一緒になって子どもたちの成長を応援する「コミュニティ・スクール」の大切さを改めて感じています。

さて、下記の通り、学校ではこれからたくさんの行事(取組)が目白押しです。保護者の皆様のご支援のほどよろしくお願いいたします。

- 【9月】前期期末考査 八女地区新人陸上大会 生徒会選挙 3年生三者面談
- 【10月】八女地区新人大会 八女地区連合音楽会 文化発表会 生徒会交代式
- 【11月】後期中間考査 小中一貫教育研究発表会
- 【12月】1年生職場体験 2年生修学旅行 3年生三者面談

「平和への願い」を届けました！

「八女市平和祈念式典」に献呈する千羽鶴を、夏休みに入る前に、生徒会役員が市役所に届けました。見崎中の全校生徒で、平和の祈りを込めて鶴を折り、千羽鶴の形に揃えました。

8月5日(金)の出校日には、全学年が「平和学習」を行い、平和を守ることの大切さを、改めて実感しています。また、図書館でも、「戦争・平和」に関する本を特集しています。



八女市中学生平和学習事業について

8月5日(金)～6日(土)に、八女市中学生平和学習事業が3年ぶりに開催され、本校代表として2年生の加藤諒汰さんが参加しました。

この事業の目的は、「八女市の平和事業の一環として、各市立学校から生徒代表を被爆地広島へ派遣し、平和記念式典への参加や平和記念資料館を見学することを通して、戦争の悲惨さや命の尊さについて学ばせる。」ことです。なお、

加藤さんが広島に行って経験した内容については、文化発表会のときに発表することになっています。全校で再度学習を深めていきます。

(※裏面には、松井広島市長の「平和宣言」を掲載しています。)



「大会を終えて」各部長の思いです！

【サッカー部 部長】



僕たちサッカー部は、たくさんのOBの方々に日頃から来てもらいながら練習をすることができて、他の学校のサッカー部よりも高いレベルで練習することができました。OBの方たちからは、サッカー以外のことも教えてもらい、人としても大きく成長することができました。最後の試合では、広川中に4対2で負けてしまいましたが、チームみんなが全力でプレーすることができたと思います。これから1，2年生は全員で協力し合って頑張ってください。

【女子バレーボール部 部長】

私たちバレー部は、2日目出場をかけた午後から西中と戦いました。結果は負けて目標を達成することができませんでした。ですが、部員全員が悔いのないプレーをすることができたと思います。2年生は、これから新人戦や来年夏の中体連に向けて頑張ってください。また、たくさんのことを教えていただいたOGの方々、送迎や応援をしてくださった保護者の方々、今までお世話になりました。本当にありがとうございました。



【女子バスケットボール部 部長】

私たちバスケットボール部は、2日目に筑後中に勝ち、筑後北中に負けてしまいました。最後の試合では、負けていても誰一人あきらめることがなく、最後まで全員で戦うことができました。今年は筑後地区大会に出場することができなかったので、これから、1，2年生はキャプテンを中心に全員で協力し合い、来年の中体連で筑後地区大会に出場できるように頑張ってください。応援しています。



【卓球部 部長】

私たち卓球部は、目標としていた2日目には残れませんでした。悔いのない試合ができたこと、仲間の絆が分かり深まることができたので、とても良い大会になりました。大会前にみんなで一生懸命練習できたことが、私にとってとても大きな思い出です。3年生は卒部してしまうけれど、約2年半の部活動で学んだことを忘れず、部活動以外のところで生かしていこうと思います。また1，2年生は、仲良く明るく元気な卓球部をつくり、来年の大会は悔いのない大会にして下さい。応援しています。



※陸上部では、2年 さんが県大会の低学年80mHの部へ出場しました。

へいわせんげん
平和宣言

母は私の憧れで、優しく大切に育ててくれました。そう語る、当時、16歳の女性は、母の心尽くしのお弁当を持って家を出たあの日の朝が、最後の別れになるとは、思いもしませんでした。77年前の夏、何の前触れもなく、人類に向けて初めての核兵器が投下され、炸裂したのがあの日の朝です。広島駅付近にいた女性は、凄まじい光と共にドーンという爆風に背中から吹き飛ばされ意識を失いました。意識が戻り、まだ火がくすぶる市内を母を捜してさまよい歩く中で目にしたのは、真っ黒に焦げたおびただしい数の遺体。その中には、立ったままで牛の首にしがみついた黒焦げになった遺体や、潮の満ち引きでぶかぶか移動しながら浮いている遺体もあり、あの日の朝に日常が一変した光景を地獄絵図だったとふりかえります。

ロシアによるウクライナ侵攻では、国民の生命と財産を守る為政者が国民を戦争の道具として使い、他国の罪のない市民の命や日常を奪っています。そして、世界中で、核兵器による抑止力なくして平和は維持できないという考えが勢いを増しています。これらは、これまでの戦争体験から、核兵器のない平和な世界の実現を目指すこととした人類の決意に背くことではないでしょうか。武力によらずに平和を維持する理想を追求することを放棄し、現状やむなしとすることは、人類の存続を危うくすることにほかなりません。過ちをこれ以上繰り返してはなりません。とりわけ、為政者に核のボタンを預けるということは、1945年8月6日の地獄絵図の再現を許すことであり、人類を核の脅威にさらし続けるものです。一刻も早く全ての核のボタンを無用のものにしなくてはなりません。

また、他者を威嚇し、その存在をも否定するという行動をしてまで自分中心の考えを貫くことが許されてよいのでしょうか。私たちは、今改めて『戦争と平和』で知られるロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない。他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ」という言葉をかみ締めるべきです。

今年初めに、核兵器保有5か国は「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」「NPT（核兵器不拡散条約）の義務を果たしていく」という声明を発表しました。それにもかかわらず、それを着実に履行しようとしなければ、核兵器を使う可能性を示唆した国があります。なぜなのでしょう。今、核保有国がとるべき行動は、核兵器のない世界を夢物語にすることなく、その実現に向け、国家間に信頼の橋を架け、一步を踏み出すことであるはず。核保有国の為政者は、こうした行動を決意するためにも、是非とも被爆地を訪れ、核兵器

しよう さい けつまつ ちよくし かくみん せいめい ざいさん まるる かくへいき
を使用した際の結末を直視すべきです。そして、国民の生命と財産を守るためには、核兵器
なくす いがい こんぼんてき かいけつさく みいだせない かくしん
を無くすこと以外に根本的な解決策は見いだせないことを確信していただきたい。とりわけ、
らいねん ひろしま かいさい ひろしま かいさい さみっと しゅっせき いせいしゃ つよくきたい
来年、ここ広島で開催されるG7サミットに出席する為政者には、このことを強く期待し
ます。

ひろしま ひばくしゃ へいわ ねがい げんでん かくへいきはいぜつ しょうがい ささげられたつばいすなお
広島は、被爆者の平和への願いを原点に、また、核兵器廃絶に生涯を捧げられた坪井直
し ねばーぎぶあっぷ せいしん うけつぎ かくへいきはいぜつ みち けわしい
氏の「ネバーギブアップ」の精神を受け継ぎ、核兵器廃絶の道のりがどんなに険しいとしても、
じつげん めざしつづけます
その実現を目指し続けます。

せかい 8 200 へいわとし ねっとわーく はってん へいわしゅちようかいぎ ことし だい10かい
世界で8,200の平和都市のネットワークへと発展した平和首長会議は、今年、第10回
そうかい ひろしま かいさい そうかい しみんひとりひとり しあわせ くらす せんそう ぶりよく
総会を広島で開催します。総会では、市民一人一人が「幸せに暮らすためには、戦争や武力
ぶんそう せいめい きけん しゃかいてき さべつ たいせつ おもい
紛争がなく、また、生命を危険にさらす社会的な差別がないことが大切である」という思い
きょうゆう しみんしゃかい じつげん めざします うえ へいわ ねがうかめいと し れんけい きょうか
を共有する市民社会の実現を目指します。その上で、平和を願う加盟都市との連携を強化
ぼうりよく ひてい へいわぶんか しんこう へいわしゅちようかいぎ いせいしゃ かく
し、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を振興します。平和首長会議は、為政者が核
よくしりよく いぞん たいわ つうじたがいこうせいさく めざす あとおし
抑止力に依存することなく、対話を通じた外交政策を目指すことを後押しします。

ことし6がつ かいさい かくへいききんしじょうやく だい1かいいていやくこくかいぎ ろしあ しんこう なか
今年6月に開催された核兵器禁止条約の第1回締約国会議では、ロシアの侵攻がある中、
かくへいき きょうい だんこ きよひ せんげん おこなわれました かくへいき いぞん くに
核兵器の脅威を断固として拒否する宣言が行われました。また、核兵器に依存している国が
おぶざーばーさんか なか かくへいききんしじょうやく こうけん ほんかん
オブザーバー参加する中で、核兵器禁止条約がNPTに貢献し、補完するものであることも
きょうちよう にほんせいふ ふまえ さいけんとうかいぎ
強調されました。日本政府には、こうしたことを踏まえ、まずはNPT再検討会議での
はしわたしやく はたす じかい ていやくこくかいぎ ぜひ さんか いっこく はやくていやくこく
橋渡し役を果たすとともに、次回の締約国会議に是非とも参加し、一刻も早く締約国となり、
かくへいきはいぜつ むけたうごき あとおし つよくもとめます
核兵器廃絶に向けた動きを後押しすることを強く求めます。

へいきんねんれい 84さい こえ しんしん あくえいきょう およぼすほうしやせん せいかつめん さまざま
また、平均年齢が84歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々
くるしみ かかえるおおく ひばくしゃ くのう よりそい ひばくしゃしえんさく じゅうじつ つよく
な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く
もとめます
求めます。

ほんじつ ひばく77しゅうねん へいわきねんしきてん あたり げんばくぎせいしゃ みたま ころからあいどう まこと
本日、被爆77周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を
ささげる かくへいきはいぜつ さきに せかいこうきゅうへいわ じつげん むけ ひばくちながさき
捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そし
おもい おなじく せかい ひとびと とも ちから つくす ちかいます
て思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

れいわ4ねん 2022ねん 8がつ6にち ひろしましちょう まつい かずみ
令和4年(2022年)8月6日 広島市長 松井 一實